

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和5年4月

京都先端科学大学

京都先端科学大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・人文学部（歴史文化学科）
- ・バイオ環境学部（バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、食農学科）
- ・健康医療学部（健康スポーツ学科）

■ 中学校教諭一種免許状

【 免許状の種類及び教科 】	【 課程をおく学部・学科 】
中学校教諭一種免許状（社会）	人文学部歴史文化学科
中学校教諭一種免許状（理科）	バイオ環境学部バイオサイエンス学科 バイオ環境デザイン学科
中学校教諭一種免許状（保健体育）	健康医療学部健康スポーツ学科

■ 高等学校教諭一種免許状

【 免許状の種類及び教科 】	【 課程をおく学部・学科 】
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	人文学部歴史文化学科
高等学校教諭一種免許状（理科）	バイオ環境学部バイオサイエンス学科 バイオ環境デザイン学科
高等学校教諭一種免許状（農業）	バイオ環境学部食農学科
高等学校教諭一種免許状（保健体育）	健康医療学部健康スポーツ学科

京都先端科学大学大学院 教職課程認定学部・学科一覧

- ・人間文化研究科 人間文化専攻
- ・バイオ環境研究科 バイオ環境専攻

■ 中学校教諭専修免許状

【 免許状の種類及び教科 】	【 課程をおく学部・学科 】
中学校教諭専修免許状（社会）	人間文化研究科人間文化専攻
中学校教諭専修免許状（理科）	バイオ環境研究科バイオ環境専攻

■ 高等学校教諭専修免許状

【 免許状の種類及び教科 】	【 課程をおく学部・学科 】
高等学校教諭専修免許状（地理歴史）	人間文化研究科人間文化専攻
高等学校教諭専修免許状（理科）	バイオ環境研究科バイオ環境専攻

目次

I	教職課程の現状及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	5
III	総合評価	8
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	9
V	「現況基礎データ一覧」	11

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

<学部>

- (1) 大学名：京都先端科学大学
- (2) 学部名：人文学部 バイオ環境学部 健康医療学部
- (3) 所在地：・人文学部歴史文化学科
京都府京都市右京区山ノ内五反田町 18 番地
・バイオ環境学部・健康医療学部健康スポーツ学科
京都府亀岡市曾我部町南条大谷 1-1
- (4) 学生数及び教員数（令和 4 年 5 月 1 日現在）
学生数： 評価対象
人文学部歴史文化学科 30 名／学科全体 294 名
バイオ環境学部 52 名／学部全体 514 名
健康医療学部健康スポーツ学科 90 名／学科全体 334 名
教員数：教職課程科目（教職・教科とも）
担当（専任教員）39 名／課程を持つ学科の専任教員合計 55 名

<大学院>

- (1) 大学名：京都先端科学大学大学院
- (2) 研究科名：人間文化研究科 バイオ環境研究科
- (3) 所在地：・人間文化研究科
京都府京都市右京区山ノ内五反田町 18 番地
・バイオ環境研究科
京都府亀岡市曾我部町南条大谷 1-1
- (4) 学生数及び教員数（令和 4 年 5 月 1 日現在）
学生数： 評価対象
人間文化研究科 0 名／研究科全体 9 名
バイオ環境研究科 0 名／研究科全体 7 名
教員数：教職課程科目（教職・教科とも）
担当（専任教員）33 名／課程を持つ研究科の専任教員合計 51 名

2 特色

本学は、開学当初より教職課程を設置し、中等教育の教員養成に関わってきた。学問的な知識を豊かにそなえ、同時に若い世代の成長を支援する人間的な成熟度に満ちた学校教員の養成は、人材育成という大学の社会貢献の有意義不可欠の部分といえる。本学の教職課程が特に目指すのは、知的な専門性と指導力に富み、地域に根ざした教育環境の向上に寄与する教員の養成である。これは本学の建学の精神にも則っている。

そのために本学の教職課程では、学生に対する教職に関する理論の指導と徹底した実践的指導を心がけている。さらに教育実習以前の段階で履修者が厳選され、教育者としての適性に富んだ学生にメンバーが絞られていくことが、本学の教職課程の特徴である。履修者には深く広い専門知識、そして青少年の心身の発達に即した濃（こま）やかな指導性の獲得という、高い達成目標を課している。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料 1： 京都先端科学大学 HP 『建学の精神』
(<https://www.kuas.ac.jp/about/outline/policy>)
- ・資料 2： 京都先端科学大学 HP 『教職課程に関する情報公表』
(<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/teacher>)

II 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目1-1 教職課程に対する目的・目標を共有

[状況説明]

本学の教職課程教育の目的・目標を、「建学の精神」及び「卒業認定・学位授与の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。そして、育成を目指す教師像の実現に向けて、教職課程委員会（教務センター長、教職課程専任教員、教職課程を有する学部学科の教務主事、そして事務局から教務センター課長などが参加）や、教職課程連絡会（亀岡・太秦両キャンパスの教職課程指導室の教員、教職課程担当の事務職員などが参加）で教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。さらに、教職課程に関する情報公開も行っている。その中で卒業者の免許取得状況や教員への就職状況を数値で示している。

[長所・特色]

教職課程で取り組んでいることについて連絡や議論をしたり、学生の様子を交流したりする中で教職課程教育に対する目的・目標を共有している。

[取り組み上の課題]

教科及び教科の指導法に関する科目を担当している教員との教職課程教育に対する目的・目標が共有できていない。そこで、教科及び教科の指導法に関する科目を担当している教員にも免許資格課程の履修要項を配布する予定である。さらに、教職課程のFD・SD研修会に教職課程に関わる教職員の参加を呼びかけていく。そして、参加ができなかった教職員には資料や議事録等を配布して目的・目標のさらなる共通理解を図っていく。

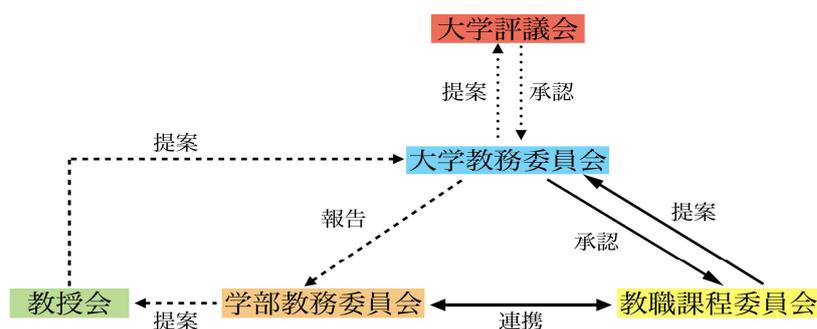
<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料1： 京都先端科学大学 HP『教職課程に関する情報公表』
(<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/teacher>)

(2) 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

[状況説明]

本学では、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員28名と実務家教員11名及び事務職員との協働体制を構築している。そして、教職課程の運営に関して本学では次の図のような体制で行っている。



図：京都先端科学大学教職課程に関する組織図
 出所：京都先端科学大学 H P 『教職課程に関する情報公表』
 (<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/teacher>)

また、教職課程を運営する上での施設・設備に関しては、本学には亀岡（バイオ環境学部、健康医療学部健康スポーツ学科）と太秦（人文学部歴史文化学科）の2つのキャンパスがあり、それぞれに教職課程を有する学部学科があるので2つのキャンパスそれぞれに教職課程指導室がある。教職課程指導室は京都亀岡キャンパス悠心館1階と京都太秦キャンパス西館4階にあり、学習指導要領、学校で実際に用いられている教科書や補助教材、そして教科教育や生徒指導などに関する図書・雑誌、さらに介護等体験のための解説DVD、教員採用試験の各種情報などが揃っている。さらに、学生用の自習スペースも設けている。そして、2つのキャンパスの教職課程の意思疎通を図るために教職課程連絡会を年2～3回開催しており、その時にFD・SDも実施している。教職課程に関する情報は本学のHPに公開されている。また、教職課程委員会では教職課程の改善を図るための自己点検評価を令和4年度に行い、その結果を令和5年度に公表予定である。

[長所・特色]

大学教務委員会を中心とした組織となっているので、迅速な意思決定ができています。また、亀岡・太秦の両キャンパスに教職課程指導室があることで学生への対応も迅速に行うことができています。

[取り組み上の課題]

亀岡・太秦両キャンパスの教職課程指導室の連絡をさらに円滑にすることで、学生への支援をさらに充実させていきたいと考えています。そこで、まずは太秦キャンパスの教職課程指導室を運営している専任教員が、実務家教員が担当する「教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ」の視察も兼ねて月に2～4回亀岡キャンパスの教職課程指導室を訪問し、学生の様子などの情報共有や課題の解決に向けた取り組みを行っていく。FD・SDに関しては、これまで教職課程連絡会の中で行ってきたが、今後は教職課程連絡会を教職課程FD・SD研修会としていく。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料1：京都先端科学大学 HP『教職課程に関する情報公表』
(<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/teacher>)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保

[状況説明]

本学では、毎年年度始めに新入生に対して教職課程ガイダンスを実施しており、そこで教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「免許資格課程履修要項」等を踏まえて、学生へのガイダンスとして説明している。また、学部学科での学修の様子から教員の適性があると判断した学生には教職課程の履修を呼びかけるなど教職を担うべき適切な人材の確保に努めている。

3年生の教育実習事前指導及び4年生の教育実習には履修条件を設け、それが教職課程の履修を継続するための基準となっている。これらの履修条件によって実習を行う学生数が適切な規模に絞り込まれており、学生の適性或資質に応じた教職指導が可能となっている。

さらに、年度当初に履修カルテを活用して学生自らが自分自身の履修状況や課題などを把握して、これから取り組むべきことを考えることができるようにしている。

[長所・特色]

自分の意志で教職課程の履修を決めている学生が多いため、ほとんどの学生が授業等にしっかりと取り組んでいる。

[取り組み上の課題]

各学部学科の入学者の状況が教職を担うべき適切な学生の確保に大きな影響を及ぼす。そこで、大学全体の入学者の状況をさらに良くするために自己点検評価を実施して、教職課程全体をさらに充実させ、教職課程が本学への入学のきっかけの1つになるようにする。具体的には、近年卒業生の教員採用試験合格者数が徐々に増えてきているので、教員採用試験に合格した卒業生に大学PRの協力を呼びかけるなどをしていく。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料1：京都先端科学大学 HP『教育情報の公開<2022年度>』
(<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/info>)
- ・資料2：京都先端科学大学 HP『教職課程に関する情報公表』
(<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/teacher>)

(2) 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

[状況説明]

本学では、学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。具体的には、亀岡・太秦両キャンパスに教職課程指導室を設置し

ている。教職課程指導室には教員が常駐しており、教職へのキャリアに関する相談にもいつでも対応できるようにしている。常駐している教員は校長や教諭、指導主事の経験者である。さらに、教員採用試験関連の書籍や自習スペースもあり、教職に就くための各種情報を提供するとともに採用試験の面接に向けた指導も行っている。教職課程を担当している教員と職員は教職免許の取得者数、教員への就職率を常に高めるべく努力している。また、保健体育の教員志望者には健康医療学部健康スポーツ学科と連携して、教員採用試験に向けた勉強会を実施している。

[長所・特色]

亀岡・太秦両キャンパスに教職課程指導室があり、校長や教諭、指導主事の経験者が常駐していることで、学生への濃やかな指導ができる。さらに、両キャンパスの教員で連携を取り、それぞれのキャンパスの学生が亀岡・太秦両キャンパスの教職課程指導室を利用したり、教員の指導を受けたりすることができる体制にもなっている。

[取り組み上の課題]

学部学科によっては、教職へのキャリアを志望する学生があまり増えない状況なので1、2年生のうちに教員を志望している学生を把握し、教員採用試験に向けた対策などを伝える。具体的には、教員採用試験対策を行っている外部機関を学生に積極的に紹介したり、教育現場で活躍している卒業生と連携をして、卒業生から採用試験対策や教育現場の状況を伝えたりする。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

・資料1：京都先端科学大学 HP 『教職課程に関する情報公表』

(<https://www.kuas.ac.jp/about/info-disclosure/teacher>)

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

[状況説明]

教職課程を有する人文学部歴史文化学科、バイオ環境学部、健康医療学部健康スポーツ学科では、学部学科の目的等を踏まえ、系統性を確保しながら、コアカリキュラムに対応する教職課程のカリキュラムを編成している。

その中で、教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。そのため、本学では3年生で履修する「教育実習事前指導」を中心にカリキュラムを編成しており、「教育実習事前指導」を修得しないと4年生で「教育実習」を履修することはできない。さらに、「教育実習事前指導」を履修するためには、卒業必要単位を60単位以上修得、「教職入門」「教育原論」「教育制度論」「教育の方法及び技術 (ICT 活用の理論と実践を含む)」

の修得などの条件を満たさなければならないと規定している。

また、今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、「情報リテラシー」「情報プレゼンテーション」などの情報機器に関する科目や教科指導等法の科目を中心に適切な指導が行われている。

なお、教職課程の科目に限らず本学のすべての科目はシラバスで、学修内容、評価方法等が学生に明確に示されている。

[長所・特色]

こういったカリキュラムを編成することで、学生がやるべきことが明確になる。さらに、今のところこのカリキュラムによって教育実習以前の履修者の厳選が適切に行われている。

[取り組み上の課題]

あくまで今のところ現カリキュラムが有効に機能しているが、今後のことに関しては大学全体、あるいは学生の状況を見て見直す必要があると留意している。そこで、今後も教職課程連絡会での学生の履修状況の確認を行っていく。さらに、現カリキュラムが有効に作用している要因をさらに詳細に分析し、今後のカリキュラムの在り方について検討していく。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料1：資格免許課程履修要項、2022年、pp.5-6

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

[状況説明]

本学では、取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。具体的には、3年生で履修する「教育実習事前指導」では、1年を通じて模擬授業（50分）を行っている。模擬授業を行う前には教材研究をして学習指導案を作成し、担当教員の添削指導も受ける。そして、模擬授業終了後には生徒役の学生や担当教員からの指摘を受け、その指摘をもとに参加者全員で授業について考える。さらに、模擬授業の様子は毎回録画し、授業者はその映像を見て自分自身の模擬授業を客観的な視点から振り返るといった指導を行っている。また、教育実習は主に母校実習であるが、特別な事情がない限り必ず訪問指導を行っている。

さらに、様々な体験活動とその振り返りの機会を設けている。具体的には、希望者には大学近隣の学校でボランティアや支援員としての活動を行えるようにしたり、地域の教育委員会と連携をしたイベント（理科教室など）のボランティア活動に参加したりする機会をつくっている。さらには、近隣の小・中学校と教材開発の面で連携をしている。

[長所・特色]

「教育実習事前指導」では、50分の模擬授業を何度も行うことによって授業の感覚を掴むことができる。さらに、仲間や教員の指摘や録画した映像からの振り返りを活かして、次の模擬授業づくりに取り組むことで、反省を活かすという経験もできる。さらに、毎回の模擬授業で学習指導案を作成することで、学習指導案づくりの基礎を身につけることができる。また、仲間の模擬授業に対して指摘をすることで、授業を見る目を養うこともできる。

また、ボランティアや支援員として活動することで児童生徒と関わる時間をつくり、授業づくりや生徒指導について考えるときの参考にしている。

[取り組み上の課題]

学部学科のカリキュラムの関係でボランティアや支援員としての活動に行く時間が減少し、児童生徒と関わる時間が短くなっている。そこで、2025年度の全学的なカリキュラム改革に向けての作業の中で、この件についても議論をしていく。さらに、ボランティアや支援員を必要としている機関について調べ、できるだけ多く学生に紹介できるようにする。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料1：資格免許課程履修要項、2022年、pp.5-8
- ・資料2：京都先端科学大学 HP
『【健康スポーツ学科ニュース】健スポ教育コースが丹波支援学校とオンライン交流会を開催しました』
(<https://www.kuas.ac.jp/news/2021/11/4816>)
- ・資料3：京都先端科学大学 HP
『地域の小学生約160人を対象に京都亀岡キャンパスでウォークラリーイベントを開催しました【健康医療学部】』
(<https://www.kuas.ac.jp/news/2022/11/5652>)

Ⅲ. 総合評価

人文学部では、歴史文化学科に高等学校教諭一種免許状（地理歴史）及び、中学校教諭一種免許状（社会）が取得できる課程が設置されている。本教職課程では、3年生の進級段階までに単位修得が必要な科目を定めているため、3年生以上の教職課程在籍者数は、2年生までと比べて、大幅に絞られる。この制度により、3年生以上においては、一定の学力を持った学生に対して、丁寧な少人数教育を実施できる環境が整い、そのことが本学教職課程の大きな特色となっている。3年生以上の教職課程の学生は、課程の授業において、週に複数コマ、同じ授業を受講して、課程の授業内においても活発に質疑応答をかわし、お互いの模擬授業などにも意見を出し合う環境があることで、集団意識が醸成され、高いレベルでの切磋琢磨が実現できている。たとえば模擬授業を担当する学生が、授業での発表の準備過程において、空きコマの時間に、教職課程の友人の前で、模擬授業の模擬授業をやり、友人から意見をもらって改善を図っている姿などもよく見かける。また、太秦キャンパス西館4階に設置されている教職課程指導室も大きな役割を担っている。教職課程担当教員にさまざまな相談をできる場所があること、一定の資料が揃った部屋があることは、教職課程の学生にとって、いわばキャンパス内のホームグラウンドがあることになり、教職課程の学生が本指導室で、次の模擬授業の準備をしている姿をよく見かける。こうして課程内での切磋琢磨が習慣づけられ、模擬授業にも慣れた教職課程の学生は、学科内においても、それぞれの所属するゼミにおいて、ゼミをリードするような存在になっており、他の学生の模範となるような発表を行っている。2022年度には、在校生と卒業生がそれぞれ島根県と京都市の教員採用試験に合格する成果も出ており、今後の成果も期待できる。教職課程は、歴史文化学科にとって必要不可欠な存在であることは間違いない。ただし、高等学校社会科においては、地理歴史と公民の両方の免許を取得していることが採用の条件となる教育委員会や私立学校が増えている。現在、本学では公民免許の取得ができないので、早急な対応が求められよう。

バイオ環境学部では、バイオサイエンス学科とバイオ環境デザイン学科に高等学校教諭一種免許状（理科）と中学校教諭一種免許状（理科）、食農学科に高等学校教諭一種免許状（農業）を取得できる課程が設置されている。また、バイオ環境研究科バイオ環境専攻にも高等学校教諭専修免許状（理科）と中学校教諭専修免許状（理科）を取得できる課程が設置されている。これら教職課程が設置されていることは、受験生が本学部を志望する主要な動機の一つとなっている。教員免許取得希望者は通常カリキュラム授業に加え、教職課程の科目を履修する必要があると、両方の授業を高い就学意欲で履修することにつながっているという相乗効果が観察される。また、教職課程の模擬授業で実験・実習を企画・運営することを繰り返すことは、通常カリキュラムでの実験・実習に対する態度にプラスの効果を生んでいる。その結果、主に近畿圏の複数の府県で教員採用試験の合格者を出しているだけでなく、教職課程経験者の高い就職率にもつながっている。一方、教職課程の授業をうまくこなすことができず、教職免許取得をあきらめる学生も少なからず存在する。また、教員採用試験の現役合格率は低い水準となっている。こうしたことから、教員免許取得の課程内容の詳細・心構えを学生に周知することに努めるとともに、教員採用試験に

臨む学生の支援を学部教員が教職課程教員と連携して行うなどの対策が検討されている。

健康医療学部では、健康スポーツ学科で高等学校教諭一種免許状（保健体育）と中学校教諭一種免許状（保健体育）が取得できる。中でも本学科に設置されている3つのコースのうち1つである教育コースでは、中学校と高等学校の保健体育科教員免許取得を目指した学生を募集しており、教職課程科目とは別に、教員に求められる専門的な知識や技能を身につけるためのカリキュラムを組んでいる。具体的には、1年次に現役の保健体育科教員を招聘して、教職を志す学生への講話を実施し、2年次に小学校、中学校、高等学校、特別支援学校と交流する授業を展開している。教育実習前の段階でこうした教育現場に触れる機会を持ったり、授業参観や運動指導を実施したりすることは、児童生徒の実態や、教員が授業を行ったり、子どもと接したりする際に気をつけていること、考えていることを学生が体験的に学ぶ機会となっている。また、2年次の後期には、教育コースの1人1人と教育コース担当教員が面談を実施して、継続して教員を目指す学生や進路変更を検討している学生の話ヒアリングし、将来の目標を再認識させている。3年次と4年次には、教員を目指す学生が多く所属するゼミの授業で、特別支援学校のスポーツ大会にボランティアとして参加したり、近隣の小学校と交流したりしている。さらに授業外のプログラムとして、希望者に教員採用試験対策を週1回の頻度で開催し、本学科と教職課程指導室の教員が連携をとって、教員採用試験合格に向けてサポートしている。ただし、教員採用試験に対するモチベーションの差が学生間で大きいせいもあり、教員採用試験対策に参加する学生が少ないといった現状もある。教員採用試験に真剣に挑もうとする学生同士が切磋琢磨できる環境を構築することが今後の課題である。

教職課程全体としては、基準領域1の教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みに関しては、教科及び教科の指導法に関する科目を担当している教員との教職課程教育に対する目的・目標が共有できていないという課題はあるが、概ね教職課程の自己点検評価基準を満たしていると評価できる。基準領域2の学生の確保・育成・キャリア支援に関しても、大学全体の入学者の増加や大学全体のカリキュラムとの連携という課題はあるが、概ね教職課程の自己点検評価基準を満たしていると評価できる。基準領域3の適切な教職課程カリキュラムに関しては、教職課程の自己点検評価基準を満たしていると評価できる。しかし、今後も学生の履修状況などを注視しながら漸進的に改善を進める必要があることに留意したい。

大学全体としては、卒業生の教員採用試験合格者だけでなく現役での教員採用試験合格者も輩出しており、さらに教職以外の進路においてもその成果を挙げており、熱心な学生にとっての魅力ある課程となっていると評価できる。

IV. 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

- ① 2021年12月21日開催 2021年度第2回教職課程委員会にて以下を決定
 - ・ 全学的に教職課程を実施する体制を整備し、自己点検・評価を行う必要があることから、本学としては教職課程委員会を中心として自己点検・評価を実施
 - ・ 報告書の作成等については、教職課程専任教員及び教職課程担当職員で行い、教職

課程委員会で審議

- ② 2022年3月15日 教職課程担当専任教員及び教職課程担当職員において、全国私立大学教職課程協会の「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引きを共有し、この報告書様式に基づき報告書を作成することを決定
- ③ 2022年7月27日開催 2022年度第1回教職課程委員会にて報告書作成の協力を依頼
- ④ 2022年9月28日開催 2022年度第2回教職課程委員会にて「総合評価」の各学部学科執筆担当教員決定を依頼
- ⑤ 2022年10月中旬 各学部学科執筆担当教員と教職課程専任教員、教職課程担当職員による「総合評価」執筆にあたっての打ち合わせを実施
- ⑥ 2022年10月末 「総合評価」原稿を提出
- ⑦ 2022年11月29日 「総合評価」校正を依頼
- ⑧ 2022年12月7日 原案の作成と校正を依頼
- ⑨ 2022年12月26日 2022年度第3回教職課程委員会にて「教職課程自己点検評価報告書」を審議・承認
- ⑩ 2022年12月26日 2022年度第9回大学教務委員会にて審議・承認
- ⑪ 2023年1月11日 大学評議会にて審議・承認
- ⑫ 2023年1月24日から京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会でのピアレビュー実施（2月末まで）
- ⑬ 2023年4月以降 「教職課程自己点検評価報告書」大学HPにて公開

現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者 学校法人 永守学園					
大学・学部名称 京都先端科学大学 人文学部、バイオ環境学部、健康医療学部					
学科やコースの名称（必要な場合） ①人文学部：歴史文化学科 ②バイオ環境学部：バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、食農学科 ③健康医療学部：健康スポーツ学科					
1 卒業生数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業生数					①81名、②118名 ③80名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					①58名、②90名 ③72名
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)					①8名 ②5名 ③21名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					①2名 ②3名 ③4名
④のうち、正規採用者数					①0名 ②2名 ③0名
④のうち、臨時的任用者数					①2名 ②1名 ③4名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	20	13	6		